「おうちが NICU」―作業療法士が今、子どもの訪問でできること―

森之宮医療大学　作業療法学科　教授　伊藤直子

　コロナウイルスの蔓延で必要な医療提供もままならない日が続きます。しかし、どうしても作業療法士の支援が必要な子どもたちがいます。「行くリスク」と「行かないリスク」を天秤にかけ、医療職だからこそできる最善の方法を選択しながら訪問しています。

①**感染対策**：医療ケアの必要な子どもたちは、日々の健康管理のために訪問しています。呼吸状態や発作は今まで以上にリスクのある毎日です。ただ外界と遮断するのではなく、医療職として日々の状況の変化に合わせて環境を調整する役割があるのです。気温や季節の変化に応じて環境調整することや、適切な姿勢調整を行わないと、呼吸や摂食状態にすぐ影響が出ます。「マスクはどうするの？」「どこまですればいいのか」、いつも以上に神経を使って健康管理されるお母さまやご家族を支える役割があります。

②**医療資源や物資の調達**：マスクや消毒剤の不足に対し、関連機関に相談し、地域で入手できる方法を確保します。関連団体の HP で寄付をうけることもできましたし、国からの支援物資を優先的に入手できる通達もきています。地域によって窓口が違う場合もあり、子どもに応じて必要なことを相談支援員の協力も得て情報収集し、ご家族が安心できるような情報をタイムリーに伝えます。マスクやフェイスシールドは、その子に応じて対処方法を考え、私たち自身の衣服や持ち物に対する工夫もいつも以上に重要です。非常事態ですから、身近でできる人が支援する必要があります。

③**危機管理**：日頃からの医療機関との連携を活用して、緊急時にそなえます。家族がコロナウイルスに罹患した場合と、本人が罹患した場合では使える医療機関が違います。国からは主治医に相談してすみやかに入院できるよう指示されていますが、具体的な病院はご家族が打診しなくてはなりません。母親が離れる事が命にかかわる子どももいます。ご親族の協力を得られない場合も想定し、子どもの状態を十分に把握した近隣の医療機関の連携が必要です。

④**子どもの作業**：日々、情勢が変化するため、児童発達支援やデイサービスも使いにくくなっています。訪問のサービスも可能と言われていますが、できるところは限られています。ご家庭で少しでもストレス少なく介護できるような方法を考えています。急な中止も覚悟して、ご自宅で可能な方法を準備します。学校が始まることを楽しみにしていた Y ちゃんは、ひどく怒って反りかえっていました。学校ごっこを始めると、納得して真剣なまなざしで運筆に協力できました。子どもたちが求める作業をこの状況下で実現できることは、作業療法士の重要な役割ではないかと思います。Zoom や Skype を使った相談やアプローチも可能です。これからの時代にますます求められる手法です。

　普段、医療ケアの子どもたちはご家族のもとで厳重な感染対策を行われている場合がおおいので、意外に訪問はしやすいのですが、たよれる医療機関が不安定になるこのときこそ、遠隔診療も含めた作業療法士のアイデアが、役立つときかと思います。私は、リスクの高い子どもたちのおうちに伺うとき、「おうちが NICU」と唱えながら気を引き締めてインターホンを押しています。